

## 倫理

『臨床倫理入門』  
日本臨床倫理学会 へるす出版 2017

「どちらが正しく、どちらが間違っているのか」  
「優先すべきなのはどちらか」  
実際の場面で、ジレンマに陥っていることはない  
でしょうか。尊厳の意味や倫理4原則を実際の事件  
をもとに解説。身体拘束は3事例に対し、倫理的助  
言がされています。

『これからの倫理と看護』  
手島恵 日本看護協会出版会 2025

## 法律

認知症plus法律問題 認知症plusシリーズ  
小倉純正 日本看護協会出版会 2019

身体拘束をすれば「違法だ」と言われ、  
身体拘束をせずに転落など事故が起これば  
「賠償責任だ」と言われ…どのような対応  
をすればよいのでしょうか？  
同シリーズに身体拘束予防に特化した書籍  
もあります。

『医療法律相談』  
川西讓 法律文化社 2017  
『ナーシングビジネス』17(9)  
連載：実践的判例よみこなし術  
『病院』82(10)  
連載：医療機関で起きる法的トラブルへの対処法

## エビデンス

『回復期リハビリテーション病棟における看護実践』  
酒井郁子 医歯薬出版 2019

回復期リハ病棟での看護にEBPを実装することで、医療  
とケアの質の向上と可視化を図ることを目的とした一  
冊。実装例では、患者のQOL向上に向けた「身体拘束の  
解除」を紹介。

## 取り組み事例

『急性期病院で実現した身体抑制のない看護』  
小藤幹恵 日本看護協会出版会 2018

ICUや産婦人科など様々な診療科での事例。  
小児科ではミトンを装着し入院した患者の尊厳を守る  
ためミトンを解除。患者の安全を守るためにはミトン  
が必要だと考えている家族にどう説明したのか、また  
抑制しないことで得られた効果とは？

『「身体拘束最小化」を実現した松沢病院の方法と  
プロセスを全公開』  
東京都立松沢病院 医学書院 2020

「固定」「抑制」「安全带」...言葉だけ変えて自分  
たちの都合のいいように解釈を付けていませんか？  
と著者は問いかけています。  
松沢病院がどのように改革をしていったかや最小化  
するために行った25の事例を解説。

## カンファレンス

『ナーシングビジネス』18(11)  
第11回 身体拘束最小化に向けたカンファレンス  
の実際(一般病棟)

身体拘束に関するカンファレンスの記録では、  
身体拘束が必要な理由や継続する理由の記載が  
散見。またコピペが容易なことから同じような  
記録が増えていくことも...。  
そこで、看護部で身体拘束最小化カンファレン  
スを強化する目標を掲げ全職員にeラーニングを  
企画。身体拘束最小化委員の取り組みや取り組み  
による職員の認識変化の事例。

『リハビリナース』13(6)  
明日からできる現場発身体拘束0への取り組み

毎月1回レクリエーション開催日を「NO ロック  
day」と称し、拘束している患者さん全員の  
身体拘束を解除。セラピスト  
と看護師が食堂で患者を  
見守ります。入院時には  
聞き取れなかった  
情報が得られ、看護や  
リハの場面でも  
有用になった  
事例を紹介。

# 身体拘束

Library News 番外編 No.21

みなさんの関心が高い「身体拘束」  
身体拘束はしたくないけれど、やらざるを得ない...  
そんなジレンマに陥っている方も多いのではないのでしょうか